

久慈市立宇部小学校 『地域と共に歩む学校をめざして』

～宇部小学校支援地域本部の取組みについて～

わんぱく太鼓



事業成果

- ・毎年行われている稲作体験学習では、毎日観察できるように今年はタライに栽培した。規模は縮小したが、米作りに関する一連の作業は体験することができ、収穫祭まで行った。脱穀では、昔ながらの道具を使って、一粒一粒大事にすることも教わる事ができた。
- ・「わんぱく太鼓」を学習発表会や音楽発表会で発表し評価されることで、児童は地域の文化芸能に対する誇りをもち、もっと上手になりたい、下学年に伝えたいという意欲が高まった。
- ・昔遊びや花壇の花植え、環境整備などの活動を通して、児童は地域の方と共に活動することの楽しさを味わい、地域の方は児童について理解を深めていただく機会となった。
- ・読み聞かせボランティアによる読み聞かせ活動により、児童が普段手にすることのなかった分野の本に対する興味をもたせることができた。

田植え体験



取組内容

- ・読み聞かせボランティア「さざなみ」3名、3回、低・中・高学年に分かれて朝活動で実施した。本校では、「さざなみ」が結成されてから22年間継続されている。
- ・3・4年生に「わんぱく太鼓」の指導をしていただいている。
- ・1・2年生が11月に行っていた「昔あそび」は、感染症罹患者が多かったため、1月に実施した。老人クラブの方々に教えていただき、駒回し、あやとり、竹トンボ、竹馬などの昔遊びを楽しんだ。
- ・図書室の整備や行事で使用する物品の整備を行った。市立図書館の方から本のPOP作り等を学ぶ学習会を行った。
- ・スクールガードによる登下校の見守りを行った。
- ・花壇の花植えや草取り等の環境整備を通し交流を図った。

課題や今後の取組み

- ・年間計画を示しながら、行事や総合的な学習の時間での関係機関との連携を密にしていく。
- ・地域コーディネーターの働き方にも考慮して、限られた勤務時間の中で効率よく活動を進めていく。
- ・ボランティアの高齢化、教職員減少という中で充実した教育活動を実施するために、さらに保護者や地域に働きかけ、ボランティアを募集していく必要がある。

メッセージ・ひと言

- ・地域コーディネーターが学校と地域とを繋げる役割を十分に果たしているため、滞りなく体験や学習が実施できた。
- ・地域コーディネーターは、児童・地域の方・担任が活動しやすいように配慮し、事前準備を念入りに行っているため、担任は安心して教育活動ができている。
- ・本校は地域学習がたくさんあり、また、児童数減少により教職員も減るため、地域コーディネーターの配置がないと教職員の負担が多くなる。今後もこの事業が継続するように願っている。

ポイント

- ・地域学習では、地域コーディネーターが地域の方や教職員との打ち合わせを行い、両者をつないでいることで、滞りなく学習活動ができる。
- ・地域コーディネーターは、文書配付や打ち合わせ等で地域の方々と直接話をする事が多く、地域の情報収集を行うと共に学校側のねらいを伝えてもらうことで共通理解を図ることができる。
- ・学校・学校ボランティア・地域コーディネーターの連携を密にすることで、環境整備や行事等の学習活動を充実させることができる。